

富士宮市立内房小学校

静岡県埋蔵文化財センター

令和6年7月9日(火)

出前授業レポート

「座学で知った内容を、体験を通して学びなおすことで、より知識を深められました。」

富士宮市立内房小学校の6年生8人が、社会科の学習内容について、当時の道具の使い方を体験し、実感を伴う理解につなげる目的で、石器の試し切り・弓矢（狩猟）・火起こしの3つの体験を行いました。



石器の試し切り体験

旧石器時代や縄文時代の人々の暮らしに欠かせないものが石器であったことを確認し、発掘された本物の打製石器や磨製石器の石斧や、黒曜石の尖頭器、石鏃等を見た後、黒曜石で紙や野菜を切ってみました。切れ味の鋭さに驚いていました。

「ガラスのような石が
あんなに切れるなんて
驚いた。」



弓矢体験

縄文時代になると気候の変動に伴い、狩猟の対象が小動物になったことを学習しました。熊などの危険な動物は弓矢では倒せないことを知り、命がけて狩りをしていたことを理解し、弓矢の使い方を習得しました。初めての体験で、弓と矢の扱いに苦労しましたが、慣れてくると的に当てることができました。

「命がけて狩りをしていたと感じた。当時は作るのも大変だったと思う。」



火起こし体験

もみぎり法や弓ぎり法、舞ぎり法等の火起こしについては知っていましたが、実際にやったことはありませんでした。舞ぎり法でのやり方を説明し、2人ずつに分かれて弾み車を回し始めました。弾み車を回すのが大変で、途中で腕が痛くなってきましたが、頑張って火種を作ることができました。風が強くなかったのが、火種が飛んでしまうことはなかったのですが、湿気がありフーフータイムは少し時間がかかり着火するまでに苦労しました。それでも火を起こすことができました。

「今の生活が便利だと改めて実感できた。」



先生方の感想

「座学で知った内容を、体験を通して学びなおすことで、より知識を深められました。どの活動も子どもたちが取り組みやすいものになっており、良かったです。特に石器の試し切りは、その切れ味に驚いていました。センターの職員さんにはとてもスムーズに進めていただいて良かったです。ご準備ありがとうございました。」

